

# がれきの下から声

## 1000人埋まり、866人死亡

【ネフチェゴルスク・サハリン州北部2日共同】

サハリン地震の最大の被災地、ロシア・サハリン州北部のネフチェゴルスクで、地震発生から六日目の二日、倒壊したアパートの

がれきの下から生存者のものとみられる声が聞こえたため、救助隊は必死の捜索を続けた。しかし、現地の救助隊によると、同日夕までに新たな生存者救出の情

報はない。ロシア非常事態省によると、二日午後十一時(日本時間同八時)までに八百六十六人の遺体が発見された。がれきの下には依然千人以上が残っているとみられる。

倒壊したアパート群の近くでは、被災した住民らへの炊き出しが行われ、被災者が列を作っている。発見された遺体は、一カ

所に集められ、身元確認の後、次々棺の中に納められている。

救助隊によると、上層階が崩れ落ちていても、壁面が残った下層階では生存者のいる可能性があるという。

一方、サハリン州当局は二日、被災者の救援活動をしていないジャーナリストを含む外国人のオハなどへの立ち入りを禁止し、内務

局に監視を強化するよう指示した。

救助隊によると、上層階が崩れ落ちていても、壁面が残った下層階では生存者のいる可能性があるという。

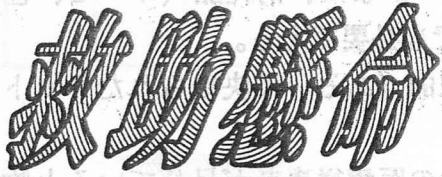
一方、サハリン州当局は二日、被災者の救援活動をしていないジャーナリストを含む外国人のオハなどへの立ち入りを禁止し、内務

局に監視を強化するよう指示した。

救助隊によると、上層階が崩れ落ちていても、壁面が残った下層階では生存者のいる可能性があるという。

一方、サハリン州当局は二日、被災者の救援活動をしていないジャーナリストを含む外国人のオハなどへの立ち入りを禁止し、内務

局に監視を強化するよう指示した。



### 3カ月の 女児救出

【ネフチェゴルスク1日ロイター共同】サハリン地震で被災したネフチェゴルスクで二日、地震発生から四日ぶりに生後三カ

月の女児ががれきの中から救出された。サハリン州のシャポワル副知事はこの赤ん坊の容体について「完

べきに元気だ」と語っている。

この日はまた、夜明け前に、約四十人の若者が下敷きになったティスコで、落

したコンクリート板をクわわれた。若者たちは髪を整い、地震当時そのまのレーンで取り除く作業も行え、パーティー用の服装と格好で発見された。

### AMD A第2陣

## 救援物資を満載 岡山からチャーター機

### 岡山からチャーター機

サハリン地震の被災者救済のため、アジア医師連絡協議会AMD A本部、岡山市構内の医療チームや全国各地からの救援物資を満載したチャーター機が二日、岡山空港(同日日庇寺)を飛び立ちサハリンへ入った。

阪神大震災の被災地、神戸市からも一人が乗り込み、多くの物資が持ち込まれた。民間団体が旅客機をチャーター、海外への大規模な緊急救援物資、人員の輸送は、日本では異例のことで、地方の国際貢献の新たな可能性を示した。

段ボール箱に詰められた医薬品や食料、衣類。大学生ら約三十人のボランティアの仕上げけた大量の救援物資が、ロシア・アエロフロート社のチャーター機貨物室に次々と運び込ま

大きなリュックを背負いサハリンへ向けチャーター機に乗り込むAMD Aの医療チーム岡山空港

れ、客席にも毛布などが積み込まれた。作業を見守りながら同機のユリ・コロシニコフ乗務員長は「すべて物資が、日本からの支援の気持ちの表れ。大変ありがたく感じ」と語った。

連絡調整員として乗り込んだ栗吉威さん(左)は「阪神大震災地元NGO救援連絡会(左)を代表して参加。

「震災では、国内外からさまざまな支援を受けた。その時の感謝の気持ちを今回の救援活動で示したい」と言う。

AMD Aや各種団体をつくる「国際貢献トピア岡山構想を推進する会」は、岡山を民間国際貢献の拠点にする運動を展開中。その中で岡山県航空協会などは、岡山空港を基地として、航空機で被災地に医師や物資を輸送する構想を掲げている。構想に基づき同航空協

会は今回、チャーター手続きなどで協力、わすかの期間でのチャーターが可能になった。中塚総一郎同協会常務理事は「地方からも国際貢献について情報発信できるという、分かりやすいケースとなった。離発着やスペースに余裕のある地方空港だから可能だ。今後、岡山空港に医療などの救援物資の保管倉庫設置など、関係機関などに働き掛けていきたい」と話した。

AMD A本部、岡山市構内の医療チームや全国各地からの救援物資を満載したチャーター機が二日、岡山空港(同日日庇寺)を飛び立ちサハリンへ入った。

阪神大震災の被災地、神戸市からも一人が乗り込み、多くの物資が持ち込まれた。民間団体が旅客機をチャーター、海外への大規模な緊急救援物資、人員の輸送は、日本では異例のことで、地方の国際貢献の新たな可能性を示した。

段ボール箱に詰められた医薬品や食料、衣類。大学生ら約三十人のボランティアの仕上げけた大量の救援物資が、ロシア・アエロフロート社のチャーター機貨物室に次々と運び込ま

大きなリュックを背負いサハリンへ向けチャーター機に乗り込むAMD Aの医療チーム岡山空港

れ、客席にも毛布などが積み込まれた。作業を見守りながら同機のユリ・コロシニコフ乗務員長は「すべて物資が、日本からの支援の気持ちの表れ。大変ありがたく感じ」と語った。

